全国学力・学習状況調査の目的や実施内容

本調査は、文部科学省が学校の設置者（教育委員会、学校法人等）の協力を得て実施するものです。

調査の目的

◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

◇ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。

◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査対象

国・公・私立学校の小学校第６学年、中学校第３学年　原則として全児童生徒

調査内容

❶ 教科に関する調査（国語、算数・数学）

出題範囲は、調査する学年の全学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能　等

② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力　等

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

❷ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

時間割

◎小学校（児童質問紙は、２時間目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施）

１時限目	２時限目	
国語（45 分）	算数（45 分）	児童質問紙（２０～４０分程度）

◎中学校（生徒質問紙は、２時間目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施）

１時限目	２時限目	
国語（50 分）	算数（50 分）	生徒質問紙（２０～４５分程度）

令和３年度全国学力・学習状況調査学力結果

※　全国平均正答率等との比較

【小学校】

	正答率	よかったところ	課題であるところ
国語	高い	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」	目的に応じて的確に「読み」、文章にまとめること
算数	やや高い	「数と計算」・「図形」	データの活用

【中学校】

	正答率	よかったところ	課題であるところ
国語	高い	「話すこと・聞くこと」	文脈の中における語句の意味を理解すること
数学	ほぼ同じ	「数と式」	既習の数学的用語を活用して図形やグラフの説明をすること

■　課題となる問題「データの活用」（小学校算数）

10 月の図書委員会で、９月の貸出し冊数を調べたところ、５年生と６年生が、ほかの学年より貸出し冊数が少ないことがわかりました。そこで、５年生と６年生 189 人にアンケートを実施し、次の２つの質問の結果に着目しました。

質問１　「読書が好きですか」
はい・・・・・　171 人
いいえ・・・・　18 人

質問２　「９月に図書室で５冊以上借りましたか」
はい・・・・・　61 人
いいえ・・・・128 人

２つの質問の結果について，下の表に整理し直すことにしました。

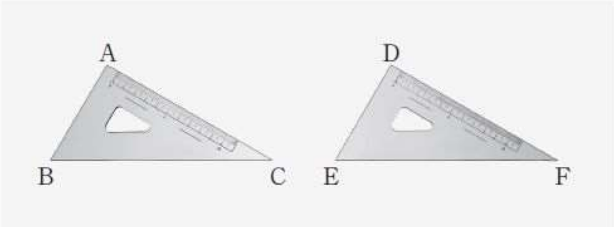
図書アンケートの２つの質問の結果　（人）

		９月に図書室で５冊以上借りましたか		合計
		はい	いいえ	
読書が好きですか	はい	①	②	③
	いいえ	④	⑤	⑥
合計		⑦	⑧	189

「読書が好きですか」に「はい」と答えていて、「９月に図書室で５冊以上借りましたか」に「いいえ」と答えている人は、114 人いることがわかりました。「114」は、表のどこにあてはまりますか。①～⑧までの中から１つ選んで、その番号を書きましょう。

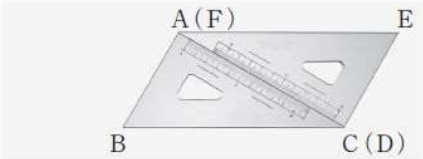
■　課題となる問題「図形」（中学校数学）

9　30°，60°，90°の同じ三角定規を２つ用意し，それぞれ△ABC，△DEFとします。直輝さんと由衣さんは，この２つの三角定規を組み合わせてできる四角形について考えることにしました。



二人は，２つの三角定規を右の**図１**のように，点Aと点F，点Cと点Dが重なるように並べました。このとき，四角形ABCEができます。

図１



次の(１)から(３)までの各問いに答えなさい。

(１) 二人は，前ページの**図１**の四角形ABCEが平行四辺形になると予想し，予想が成り立つことを示すために，次の**図４**をかきました。

図４

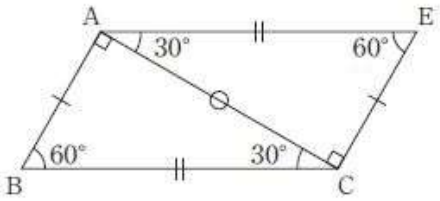


図４において，△ABCと△CEAは合同なので，対応する辺の長さや角の大きさが等しいことがわかります。

このことから，四角形ABCEが平行四辺形になることは，平行四辺形になるための条件を用いて説明できます。下の**ア**，**イ**のどちらかを選び，選んだ条件を用いて説明しなさい。**ア**，**イ**のどちらを選んで説明してもかまいません。

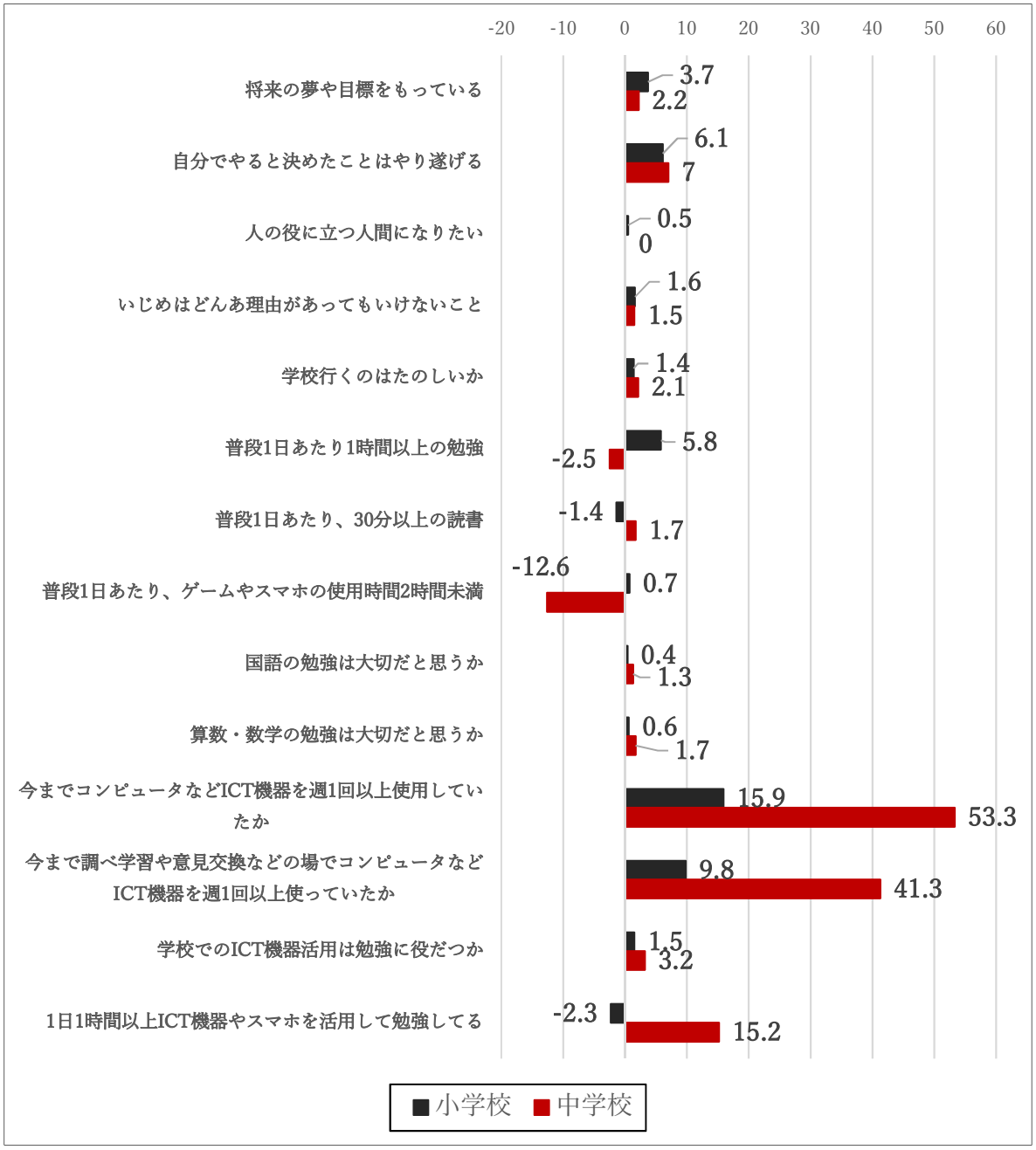
ア　２組の向かい合う辺がそれぞれ等しい四角形は，平行四辺形である。

イ　２組の向かい合う角がそれぞれ等しい四角形は，平行四辺形である。

令和３年度全国学力・学習状況調査質問紙全国平均との比較

※　全国平均を０として全国の平均パーセントとの差を提示

※　質問紙６９項目程度の中から抜粋



中学校では、上記グラフで分かるように「スマホやゲームにあてる時間」が多いため、家庭学習時間が少なくなっている生徒が全国平均より多いことが分かります。

引き続き、家庭との連携を深めることが大切と考えます。

これからの取組

問題の正答率及び児童生徒質問紙の結果も全ての項目で全国平均と同じか上回っています。今まで課題であった家庭学習の時間も小学校・中学校とも増加しています。

学力が向上した主な要因は次の２点と考えます。

① 小学校と中学校とで補充学習の実施や学習指導の統一化を図ったことや効果的な ICT 活用の事例研修等を行ったこと

② 学力を向上させる基盤となる児童生徒の健全な育成を図る学級活動や道徳及び学校行事の質が高まったことで児童生徒間、児童生徒と担任との良好な人間関係が築かれたこと、また、そのことにより保護者の学校に対する信頼関係が高まったこと

今後も、児童生徒の自己実現に向けて、今までの取組を継続・徹底していきます。